

平成29年度 第1回 研究評価委員会

開催日時

平成29年9月4日（月）13:30～17:00

中間評価対象課題と評価結果

課題名	進捗状況	得られた成果	目標達成の可能性	課題の取扱い	合計
(1)肝機能等の健全性保持による代謝病予防 肥育技術の開発  (H28～30 大家畜研究課)	4.0	3.5	4.0	3.5	15.0

○ その他特記事項等（評価委員コメント）

- ・ルーメンアシドーシス、メカニズム等の研究が盛んになってきた。重要な研究分野である。
- ・今回の発表に間に合わなかったエンドトキシンの測定結果に期待する。
- ・既存商品の研究補助になっていないか？

課題名	進捗状況	得られた成果	目標達成の可能性	課題の取扱い	合計
(2)OPU(生体卵巣からの卵子吸引)-IVF(体外受精)技術を活用した効率的和牛胚生産技術の開発 (H28～30 家畜改良繁殖研究課)	4.0	4.3	3.5	4.0	15.8

○ その他特記事項等（評価委員コメント）

- ・肥育素牛の県内確保が重要な課題、当技術の実用化が望まれる。
- ・繁殖農家が少ない中で可能性の大きい技術だと思われる。

事前評価対象課題と評価結果

課題名	必要緊急性	新規独創性	達成の可能性	期待される効果	合計
(3)養豚現場に適したストレス評価方法の検討  (H30～32 中小家畜研究課)	3.8	4.3	4.0	4.5	16.5

○ その他特記事項等（評価委員コメント）

- ・食の安全、安心、JGAPにもつながる重要な課題である
- ・農家にいかに普及するかを視野に研究を進めてください。効率の良い普及方法を考えて。

課 題 名	必要緊急性	新規独創性	達成の可能性	期待される効果	合計
(4)めん羊飼養による中山間地域・遊休地活用技術 (H30～32中小家畜研究課)	3.0	4.0	4.3	4.5	15.8

○ その他特記事項等（評価委員コメント）

- ・全国的な問題、地域ごとに異なりひとくくりに解決できない。
- ・生産物、素畜の活用は新しい考え方。
- ・担い手を育て、地域活性化につながればよい。
- ・単なる遊休地の活用のみならず、自然農法や自給農業を目指す人たちを含めたトータルな地域活性化の1手法として総合的な施策を考えると効果が出るのではないか

課 題 名	必要緊急性	新規独創性	達成の可能性	期待される効果	合計
(5)多数のウシ卵子を簡易に凍結できる手法 (H30家畜改良繁殖研究課)	4.5	5.0	4.5	5.0	19.0

○ その他特記事項等（評価委員コメント）

- ・牛の繁殖技術、学術的にも興味深いし、評価も高い
- ・肉用牛経営者が繁殖部門に取り組む事例が増えており、関心は高い